

## さとうきびにおけるツマジロクサヨトウ防除対策について

本年国内で初めて発生が確認されたツマジロクサヨトウについては、現在のところ、飼料用とうもろこしの生産ほ場を中心に、一部のスイートコーン（未成熟とうもろこし）、飼料用ソルガム及びさとうきびの生産ほ場において発生が確認されています。

さとうきびにおける本虫による被害を抑制するためには、早期発見、早期防除が必要です。

このため、次の防除対策を実施するようお願いします。

### 1. 防除対策

#### (1) 早期発見

生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられることから、生産ほ場を定期的な見回りを行い、早期発見に努める。

#### (2) 早期防除

本虫の発生が確認された生産ほ場では、農薬リスト（別紙）を参考に農薬による防除を実施する。散布にあたっては、新葉の葉鞘基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株の上部までしっかりと散布する。

なお、周辺作物への農薬の飛散（ドリフト）には十分注意する。

（注）農薬の使用に当たり、不明なことがある場合には、病害虫防除所や普及指導センター等関係機関に相談ください。

#### (3) 収穫後の対応

本虫が残株及び土壌中に幼虫及び蛹の形態で残存している可能性があるため、収穫後は速やかに複数回の耕耘を行う。

なお、株出し栽培等により、収穫後に耕耘しないで同一生産ほ場で継続して栽培する場合には、農薬散布による防除を行う。

### 2. 前作に発生が確認された生産ほ場等における防除

(1) 本虫が土壌中に蛹の形態で残存している可能性があるため、収穫後は速やかに複数回の耕耘を行い、残存害虫を駆除してから新たに定植する。

なお、株出し栽培等により、収穫後に耕耘しないで同一生産ほ場で継続して栽培する場合には、農薬散布により予防的防除を行うとともに、定期的な見回りによる早期発見に努める。

(2) 生育初期に幼虫の食害を受けた場合、被害が大きくなると考えられることから、生産ほ場の定期的な見回りを行い、早期発見に努め、発生を確認したら直ちに農薬散布を行う。

(3) 前作に発生が確認された生産ほ場の周辺生産ほ場においても、定期的に見回りを行い、早期発見、早期防除に努める。

(別紙)

## 【農薬リスト】 さとうきび（抜粋）

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BPMC・MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
BPMC・MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
BPMC乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEPマイクロカプセル剤	散布	収穫90日前まで	-	500～1000倍	4回以内
MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
カルボスルファン粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6～9kg/10a	1回
カルボスルファン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回
クロチアニジン水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2500倍	3回以内
クロチアニジン粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		6kg/10a	1回
クロラントラニプロール・ジノテフラン水和剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	5000倍	3回以内
クロラントラニプロール粒剤	株元散布	生育期但し、最終培土まで		4～6kg/10a	1回
クロラントラニプロール粒剤	植溝土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	植溝処理土壌混和	植付時		4～6kg/10a	1回
プロチオホス粉粒剤	株元処理土壌混和	生育期但し、収穫90日前まで		15kg/10a	2回以内
ベンフラカルブ粒剤	株元散布又は株元土壌混和	培土時		4～6kg/10a	1回
ベンフラカルブ粒剤	植溝土壌混和	植付時		6～9kg/10a	1回